

[7]

氏名	黄 夢荷
博士の専攻分野の名称	博士（心理学）
学位記番号	心博第41号
学位授与の日付	2021年9月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	他者操作方略に関連するパーソナリティ要因の 検討
論文審査委員	主査 教授 串崎 真志 副査 教授 阿部 晋吾 副査 准教授 守谷 順

論文内容の要旨

本論文は、他者操作方略を取りうる人がどういう人たちであるかを明らかにするために、他者操作方略尺度に影響するさまざまなパーソナリティ要因を検討したものである。

本論文は7章から構成されている。第1章・第2章では、研究の背景として、操作の辞書の定義に始まり、倫理学における操作、情報・広告・催眠における心理的操作、境界性パーソナリティ障害、情動操作尺度、他者操作方略尺度、サイコパシー特性、マキャベリアニズム、愛着スタイル、孤独感、共感性について述べた。続いて第3章～第6章では、中国と日本において調査を繰り返し、他者操作方略尺度に影響するさまざまなパーソナリティ要因を検討した。第7章では総合考察を行った。

要旨は以下の通りである。

第1章・第2章では、理論的背景について整理し、本論文の目的を述べた。操作という言葉自体は中立的であるが、本研究では他者操作方略を、「利己的で高圧的に他者をコントロールして自己の利益を得ようとする行動」と「他者からのケアを引き出そうとする行動」という、二つの側面をもつと定義し（寺島・小玉,2004）、他者操作方略尺度によって測定される4つの方略、すなわち「自己優越的感情操作」「自己卑下的感情操作」「自己優越的行動操作」「自己卑下的行動操作」について検討した。先行研究によって、(1) 認知処理のリソースに余裕がなくなるほど、(2) 対人ストレスが高まるほど、他者操作方略は増加する。そして、(3) 他者操作方略が成功することで、自尊心が高まったり、社会適応が維持されたりすることが示唆されている。本研究では、操作と関連の深い Dark Triad（以下は DT）の特性を中心に、愛着不安や孤独感を促進要因として、共感性や感覚処理感受性を抑制要因として仮定し、他者操作方略に対する影響を検討した。

第3章（研究1）では、中国人31,049名を対象に、Dark Triad Dirty Dozen（DTDD; Geng, Sun, Huang, Zhu, & Han, 2015）と他者操作方略尺度（寺島・小玉, 2007）を実施し、両者の間に正の相関があることを報告した。

第4章（研究2）では、中国人319名を対象に、Dark Triad Dirty Dozen（DTDD; Geng et al., 2015）、他者操作方略尺度（寺島・小玉, 2007）、多次元共感性尺度（Multidimensional Empathy Scale, MES; 鈴木・木野, 2008）、Experiences in Close Relationship Inventory（ECR; Li & Kato, 2006）を実施し、DTと他者操作方略の間に（媒介して）、見捨てられ不安や自己指向的反応の高まりがあることを報告した。

第5章（研究3）では、日本人200名を対象に、日本語版Dark Triad Dirty Dozen（田村・小塩・田中・増井・Jonason, 2015）、他者操作方略尺度（寺島・小玉, 2004）、UCLA孤独感尺度短縮版（Igarashi, 2019）を実施し、DTと他者操作方略（特に自己優越的感情操作・自己卑下的感情操作）の間に（媒介して）、孤独感の高まりがあることを報告した。

第6章（研究4）では、研究5の予備調査として、日本人300名を対象に、感覚処理感受性（Highly Sensitive Person Scale: HSPS-J19 高橋, 2016）、日本語版対人反応性指標（Interpersonal Reactivity Index: IRI-J, 日道他, 2017）、情動伝染（Basic Empathy Scale; Carré, Stefaniak, D'ambrosio, Bensalah, & Besche-Richard, 2013）を実施し、感覚処理感受性が、対人反応性指標・情動伝染と正の相関をもつことを報告した。

同じく第6章（研究5）では、日本人200名を対象に、感覚処理感受性（HSPS-J19 高橋, 2016）、日本語版対人反応性指標（IRI-J, 日道他, 2017）、情動伝染（Basic Empathy Scale; Carré et al., 2013）、被影響性（MES; 鈴木・木野, 2008）を実施し、（感覚処理感受性の）美的感受性と他者操作方略の間に正の相関があることを報告した。また、（感覚処理感受性の）易興奮性と他者操作方略（自己卑下的行動操作・自己卑下的感情操作）の間に（媒介して）、被影響性や個人的苦痛の高まりがあることを報告した。

第7章では、総合考察を行った。研究1～研究5で明らかになった、他者操作方略の特徴は、次の通りである。「自己優越的感情操作」は、自己の誇大的な（grandiose）側面によって生じ、また、孤独感の高まりによって生じることが示唆された（研究3）。「自己卑下的感情操作」は、不安や孤独を解消するために、他者の気持ちを惹こうとして、相手からケアを引き出そうとする操作であり、社会適応的な機能をもつと示唆された（研究3, 研究5）。「自己優越的行動操作」は（他の操作に比べて）、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムの影響が強く、コミュニケーションの暗黒面としての「The 操作」と考えられた（研究1）。「自己卑下的感情操作」は、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムの影響が（ナルシズムに比べて）強く（研究2）、コミュニケーションの暗黒面としての操作に近い一方で、被影響性・個人的苦痛が高まることで、生じやすくなることも示唆された（研究5）。これらをふまえて、他者操作方略を生じさせるメカニズムを「暗黒説」と「不安・孤独低減説」の2つで考察した。

論文審査結果の要旨

本論文は、日常生活の他者操作的なコミュニケーションに関連する、さまざまなパーソナリティ変数を、質問紙調査によって検討し、サイコパシー傾向やマキャベリアニズムに関連する操作（自己優越的操作）と、孤独感等が高いことで生じやすくなる操作（自己卑下的操作）の2種類を見出した基礎的研究である。

以下に、心理学研究科が定める博士学位論文審査基準（課程博士）に従って、審査委員の見解を述べる。

1. 問題意識が明確で、課題設定が適切であること

本論文は、他者操作方略に関連すると思われるパーソナリティ変数を、サイコパシー傾向を初めとして順次、検討する形で展開している。課題の設定および研究の流れは概ね適切であるが、仮説の設定に曖昧な箇所がある等、やや探索的な印象を受ける。

2. 国内外の先行研究を適切に検討、吟味していること

他者操作については、幅広い視野で研究を踏まえている点を評価できる。一方、サイコパシー傾向あるいは Dark Triad については、日進月歩の研究分野でもあり、国外の心理学的研究をもう少し踏まえることが望まれる。

3. 研究目的に照らして研究・分析の方法が適切であること

先行研究に習い、研究目的に照らして概ね適切に検討しているが、分析方法の理解や記述に、十分でない点が見受けられる。また図表についても、過不足なく表記するよう、改善の余地がある。

4. 論文構成が的確で、論理的展開に整合性、一貫性、説得性があること

論文構成・論理的展開は全体として概ね的確であるが、第6章に Dark Triad の変数が組み込まれていない理由等、目的が明確でない記述が見られる。研究3は重要な知見であるので、再現性を確認するなどによって、説得性を高める必要がある。第7章の総合考察は、わかりやすく整理されている一方、断定的な記述が多く、結果に即して精確に論じていく必要がある。

5. 全体を通して学術的な独創性が認められること

本論文は、他者操作的なコミュニケーションにおいて、相手と関係を構築しようとする社会適応的な側面に関する新たな視点を含み、学位論文にふさわしい学術性と独創性を有すると評価できる。

6. 国内外の学会や社会に対して貢献が認められること

本論文は、日常生活におけるコミュニケーションの複雑さを明らかにする、基礎研究の一つとして貢献が認められる。公開口頭試問のプレゼンテーションも適切であった。

以上のように、調査研究を重ねることによって得た知見は、博士論文審査基準からみて適

切だと判断できる。よって、本論文を博士論文として価値あるものと認める。